

取扱説明書

ハーフティラー

“車軸耕耘機”

HC55A



0042-70000



- 取扱説明書本文中にてでくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社 オーレック

※快適作業を維持するため、製品の定期点検を励行しましょう。

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	3
《機械を他人に貸すときは…》	6
《各部の名称》	7
《各部のはたらき》	8
《上手な運転のしかた》	9
エンジン始動・停止のしかた	9
トラックへの積み降ろしのしかた	12
《上手な作業のしかた》	13
耕うん作業のしかた	15
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	14
エンジンオイルの点検・補給・交換	14
ミッションオイルの交換	15
《各部の点検・整備・調整のしかた》	16
エアクリーナの清掃のしかた	16
点火プラグの点検・調整のしかた	17
燃料パイプの点検のしかた	17
燃料フィルタポットの清掃のしかた	18
《そのほかの点検》	18
各部ワイヤ・ベルト調整のしかた	18
《耕うん爪の点検・交換のしかた》	19
耕うん爪の点検・交換・修正	20
《長期保管のしかた》	20
《アタッチメントの使用法》	20
《消耗品明細》	21
《工具袋・同梱品明細》	21
《オプション》	21
《仕 様》	22
《定期自主点検表》	23
《自己診断表》	24
《エンジンの不調とその処理方法》	25

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なメンテナンス方法について説明しております。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分に理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

- 一般公道でのトレーラー走行はできません。

(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)

- 夜間作業はできません。

(本機は作業灯が装備されていません。)

■ 取扱説明書について

- 本機を使用する前にこの取扱説明書をよくお読み下さい。
- 作業をする時は必ず携帯して下さい。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、必ず本機と一緒にお渡し下さい。
- 紛失または破損した時は、直接メーカーへご注文下さい。

《本製品の規制について》

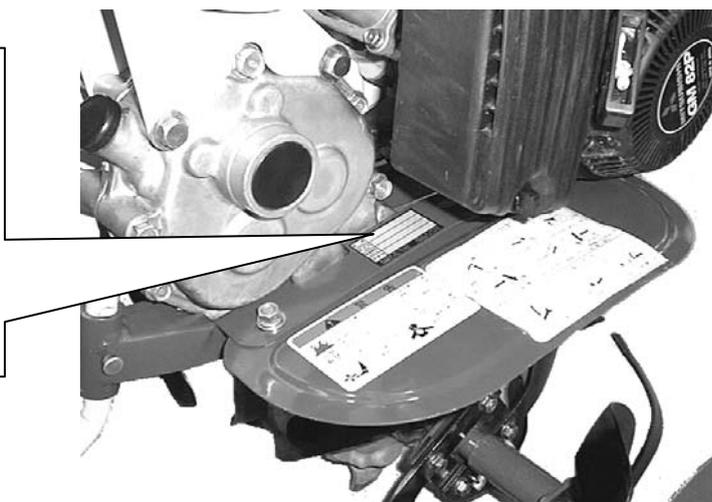
本製品は、畑の耕耘機として開発しておりますので、これ以外の用途には使用しないで下さい。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。

※商品型式・製造番号記載場所について（本体フレーム部）

種類 Description	ハーブティラー	
型式名 Model	HC55A	
製造番号 Serial No.	MP00000000	
発売元	(株)オーレック	
	株式会社 オーレック OREC CO., LTD.	MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON



「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合がございます。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もございます。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ（又は事故の大きさ）に従つて、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従つて下さい。

シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすい操作に関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

- ・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにして下さい。
- …本機はガソリンを燃料としており作業中はもちろん、機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。



⚠ 注意	⚠ 警告	⚠ 危険
このカバーなしの作業は危険です。 運転時には必ず取り付けて下さい。 安全の為、取扱説明書の内容を十分に理解してご使用下さい。	■ 車への乗せ降ろしの際には十分に注意して下さい。 ■ 傾斜地での作業は10°以下とし、安全運転を心がけて下さい。 ■ 前後進の際には、機械との挟まれや転落には十分注意して下さい。	ローターの回転部に接触すると大ケガをしますので、回転部に体を近づけないで下さい。 

0042-70600-00

（２）作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業をさせないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者にも作業をさせないで下さい。
- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子等を必ず使用して下さい。

▲ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

▲ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・主クラッチが「切」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤーを調整して下さい。

▲ 暗い時、視界が悪い時の使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない場合は使用しないで下さい。

- ・安全作業の障害となるような本機の改造（夜間作業用のライトの装着、ロータリーカバーの一部切断等）は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。
- ・本機を吊り上げて点検する場合には、必ず落下防止を行って下さい。

（３）燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取り、周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲ 給油は火災や火傷の危険がありますのでマフラの温度が十分に下がってから行って下さい。

（４）始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には燃えやすい物を近付けないで下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

（５）積み降ろし及び運搬時の注意

〈12 頁参照〉

- ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用して下さい。
- ・平坦で安全な場所を選び、搭載時に車が動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車輪止めをして下さい。
- ・運搬時、燃料コックは「OFF」位置でエンジンを必ず停止して下さい。
- ・運搬時は本機を荷台上で動かないように丈夫なロープ等で確実に固定して下さい。
- ・必ず 2 人以上で持って、車の荷台に載せて下さい。

（6）作業中の注意

- ・圃場に入人やペットを近づけないで下さい。特に子供には注意して下さい。子供が圃場に入った時には作業を中断し、エンジンを停止して下さい。思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

無理な姿勢で作業しないで下さい。

- ・急傾斜地では作業しないで下さい。傾斜角度が大きくなるほど危険です。
- ・緩斜面での作業は、上下方向よりも横方向（等高線方向）に行うようにして下さい。上下方向の作業は、本機が滑り落ちてきたり、作業者の足が滑って本機に巻き込まれる恐れがあります。
- ・緩斜面での旋回は転倒事故の恐れがあります。速度を十分に落とし、周囲に注意して行って下さい。
- ・緩斜面では必要以上に速度を上げないで下さい。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してけがをする恐れがあります。
- ・圃場への出入り、溝又は畝の横断、軟弱地の通過等は、エンジン回転を下げ、圃場の状況を十分に把握し、周りに注意して行って下さい。
- ・作業中、異常を感じたら必ずエンジンを停止し、点検を行って下さい。
- ・休憩等で本機を離れる場合には、エンジンを止め、安定した場所で確実に固定させて下さい。

エンジン回転中、排気マフラは高温となります。本機操作時等にマフラに手をかけると、火傷を負います。

- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時はすぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

エンジンがかかっている時は、絶対に手や足を耕うん爪に近づけないで下さい。

- ・作業中、ロータリを点検する時は、必ずエンジンを停止し、また手を保護するために厚手の手袋をして下さい。
- ・移動の移動、本機を持ち上げる時には必ずエンジンを停止して下さい。不意にロータリが回転し、思わぬ事故につながる恐れがあります。

冷却風の吸込口、シリンダ付近の泥、草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因になります。外側のみならず内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始めて下さい。

- ・作業中、石・木株等に当たった時は直ちにエンジンを停止し、爪の欠けや曲がりの有無を調べて下さい。
- ・標準で装備される“らくらくアンカー”は取り外さないで下さい。取り外すと、操作性が悪くなるばかりでなく、本機故障の原因にもなります。

（7）作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを停止して下さい。
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

（8）点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。



ベルトやロータリ部の安全カバーの破損は危険です。

破損した場合は使用前に必ず修理して下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
- ・爪取付けボルトは安全のため、耕うん爪交換の際には一緒に新品と交換して下さい。



ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には締め付けバンドと共に新品と交換して下さい。

- ・主クラッチ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐためマフラやエンジン本体の冷却状態を十分に確認した上で行って下さい。

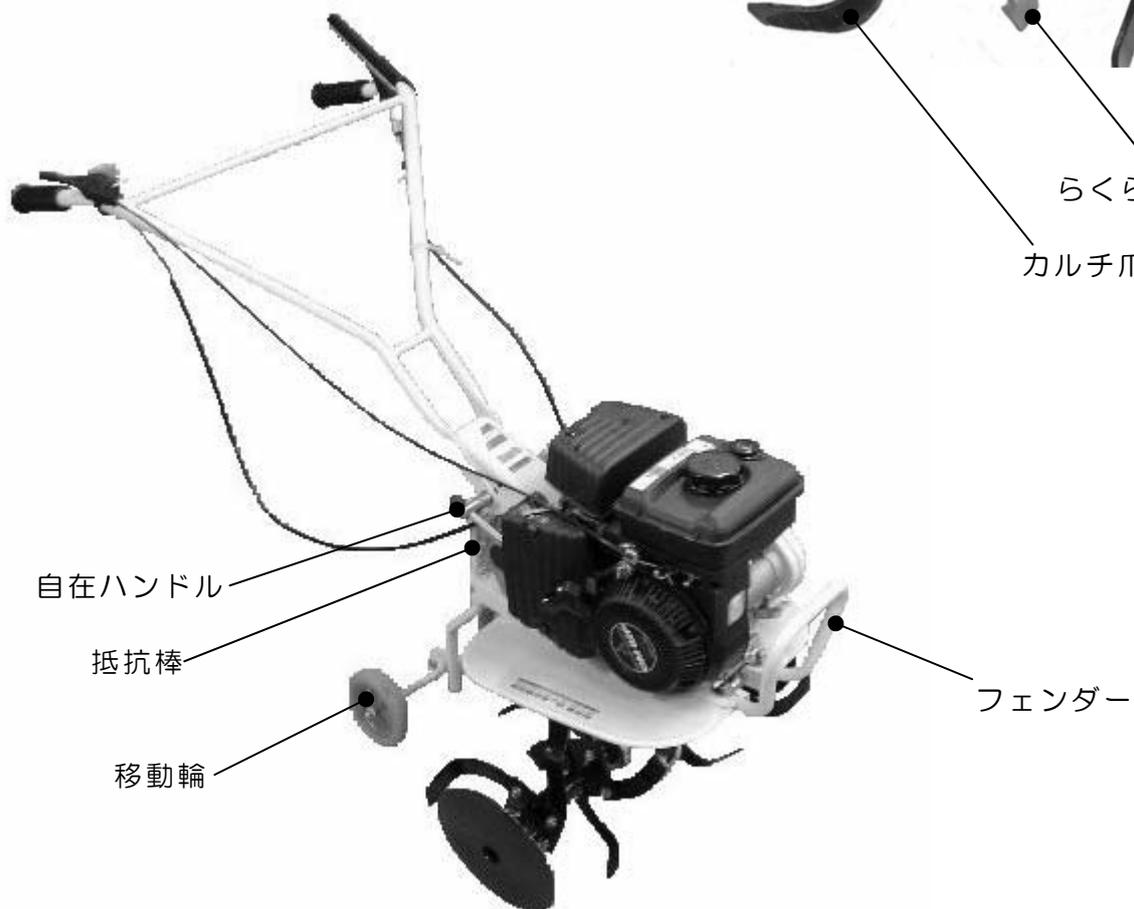
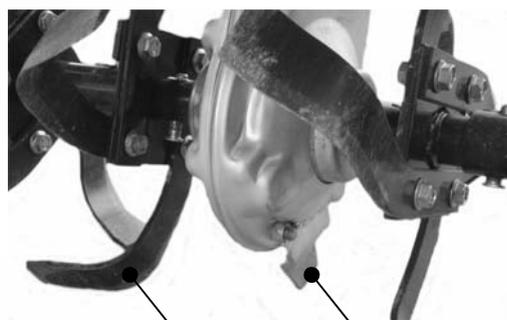
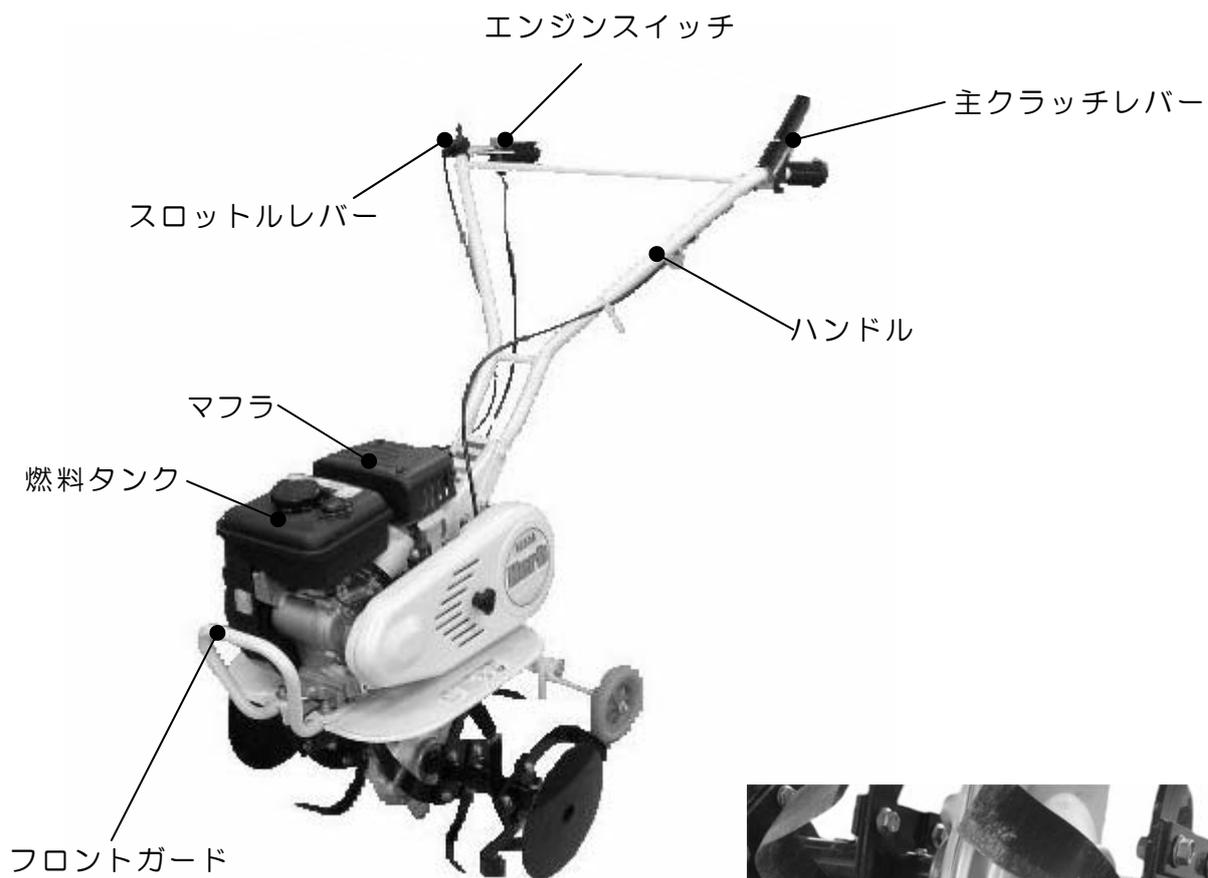
《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

①主クラッチレバー

レバーを握ると「入」、離すと「切」位置となるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

③らくらくアンカー

耕うん作業中、ロータリの回転反力で本機が前に飛び出す(ダッシング)のを抑えます。

④抵抗棒

作業者の体格及び作業状況に合わせて調節できます。
使用したい高さの穴位置で合し、固定ピンで固定して下さい。
高さ調整は、上から、上、中、下の3段階で調整できます。

⑤ハンドル締め付けボルト（自在ハンドル）

作業者の体格及び作業状況に合わせて調節できます。
ハンドル締め付けボルトを緩めて使用したい高さの穴位置で固定して下さい。
ハンドルの高さは3段階で調整できます。

⑥スロットルレバー

エンジン回転の 高・低 調整 をおこないます。

⑦エンジンスイッチ

エンジンの回転を「入(運転)」、「切(停止)」します。
スイッチを「入(運転)」にする場合は赤い部分を押しながら右に回し、黒い印を(運転)の位置にして下さい。
スイッチを「切(停止)」にする場合は赤い部分を押しだけで「切(停止)」に戻ります。

⑧移動輪

移動輪は圃場外で移動する際に使用します。
移動輪を使用して本機を移動させる際は、ハンドルを下方に押し、ローター先端を地表から浮かすようにして押し進めて下さい。
(梱包時、抵抗棒は内向きですので外向きに付け替え、その先端に移動輪を取り付けて固定ピンとRピンで固定して下さい。)

▲作業時は必ず取り外して下さい。

〈9 頁…上手な運転のしかた 参照〉

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈23頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

▲ 警告： 本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

▲ 危険

① 締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。

… 締め切った室内でエンジンを始動すると …

有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

② ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火する可能性があります。絶対に行わないで下さい。

③ エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

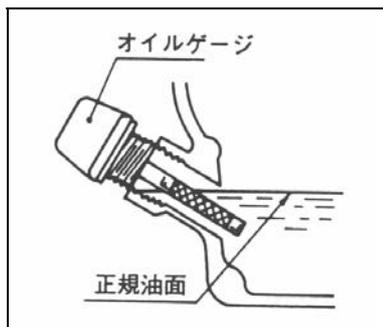
④ エンジンの暖機運転は、閉めきった部屋では行わないで下さい。

▲ 注意

エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

■ エンジン始動のしかた

① エンジンオイルを確認して下さい。



◎ 給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい

参考：

- ・ エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- ・ 使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季 (10° C 以上)	SAE30, SAE10W-30, 又は SAE40
冬季 (10° C 以下)	SAE5W20, 又は SAE10W-30

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。

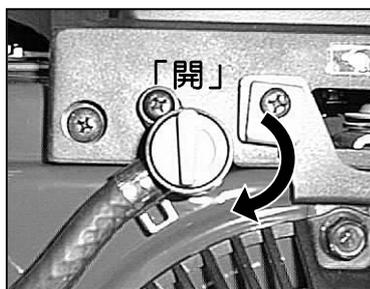


② 燃料を確認して下さい。

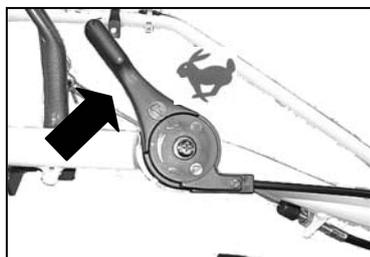
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

〈燃料タンク容量は1.9ℓ〉

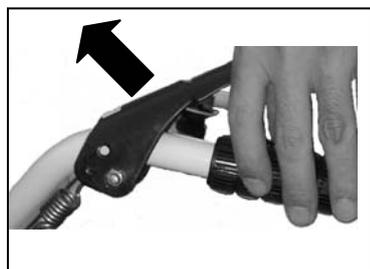
- 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
- 特に傾斜地での使用は、燃料の入れ過ぎによる燃料もれに注意して下さい。



③ 燃料コックを「開」位置にして下さい。



④ スロットルレバーを「怠速」位置にして下さい。



⑤ 主クラッチレバーから手を離して下さい。



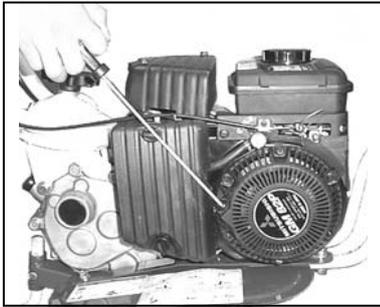
⑥ チョークレバーを「始動」Nの位置に合わせて下さい。

参考

エンジンが暖機されている場合には、チョークレバーの操作は必要ありません。



⑦エンジンスイッチ（赤い部分）を右に回し、「運転(ON)」位置にして下さい。



⑧本機が動かないようにハンドルをしっかりと押えてリコイルスタータを勢いよく引っ張って下さい。

参考：

- ・リコイルスタータの全長を確認した後、全長の8割くらいで始動するようにして下さい。全部を引いてかけると、ロープが切れる恐れがあります。
- ・エンジン運転中はリコイルスタータを引かないで下さい。異音が発生し、エンジンに悪影響を与える原因となります。

▲途中でエンジンが停止し、再始動する場合には、マフラーが高温状態になっているので触れないように注意して下さい。

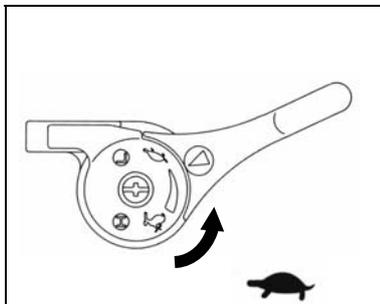


⑨チョークレバーを徐々に「運転」方向に戻し、30秒程「低速」側で暖機運転を行って下さい。

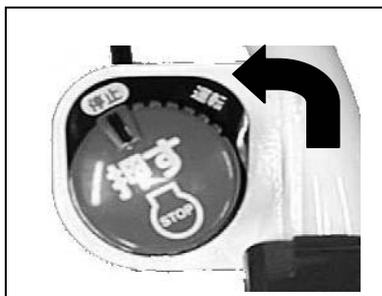
参考：

暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

■ エンジン停止のしかた



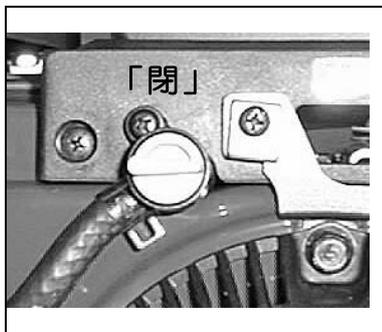
⑩スロットルレバーを『  』位置にして下さい。



⑪ エンジンスイッチを押し「停止(OFF)」位置にし、エンジンを停止して下さい。

参考；

スイッチを「停止(OFF)」にする際は赤い部分を押しだけで停止側に戻ります。



⑫ 最後に燃料コックを「閉」位置にして下さい。

自動車への積み降ろしのしかた

▲ 警告

- 運搬に使用する自動車は、搭載スペースが充分ある車種（トラック、ワゴン等）を使用して下さい。＊ハンドルを折りたたむと一部の普通乗用車に搭載可能です。
- 自動車への積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
 - ・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車輪止め」をして下さい。
 - ・本機の正面は危険です。正面には立たないで下さい。
 - ・積み降ろし共に作業は必ず二人で抱えるように行って下さい。一人での積み降ろしはたいへん危険です。
 - ・トラックでの移動については、荷台の上で動かないようにロープでしっかり固定して下さい。

《上手な作業のしかた》

⚠ 警告

- 作業中は、進行方向に人や動物がいないことを確認して下さい。
- エンジン運転中は、ローターに触れないで下さい。
- ローターの草やその他の異物を取り除く場合には、必ずエンジンを必ず停止した後に行って下さい。エンジンが回っている時にこれらの物を取り除く際、不意にローターが回りだした場合大変危険です
- ハンドルから手を離すと本機は停止します。緊急の場合にはまず、ハンドルから手を離して本機を停止させて下さい。又は、エンジンスイッチを押してエンジンを緊急停止させて下さい。
- 主クラッチレバーは必ず手で操作し、その他のヒモや針金等で固定して使用しないで下さい。非常時に停止操作が遅れ、重大な人身事故を招く恐れがあります。

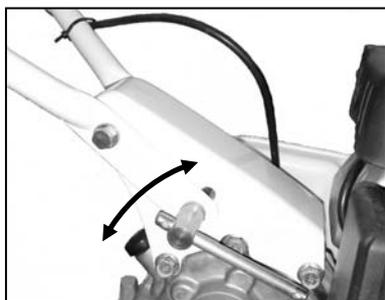
⚠ 警告

ダッシング…ローターの回転により本機が前進方向に勢いよく飛び出すこと。

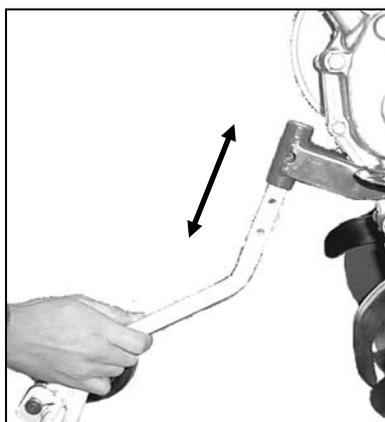
特に固い圃場や石等の異物の多い圃場で起き易い。

*作業中のダッシングを最小限に抑えるため“らくらくアンカー”は必ず取り付けられた状態で作業して下さい。

耕うん作業のしかた



- ①作業者の体格及び作業状態に応じてハンドルの上下、及び抵抗棒の位置を調整して下さい。
- ②移動輪を抵抗棒より取り外して下さい。
- ③エンジンを始動して下さい。
- ④スロットルレバーを徐々に「」側へ倒してエンジンの回転を上げ、主クラッチレバーをハンドルと一緒に握るとローターが回転し始め、作業開始します。
- ⑤主クラッチレバーを手から離すとローターの回転が止まり作業を停止します。しばらく低速側でエンジンを冷やした後エンジンを停止して下さい。



参考



- ・ハンドルを両手でしっかりと握り、移動が容易な姿勢で作業をして下さい。
- ・エンジンの回転を中速程度にし、ハンドルを下方に押し下げて、抵抗棒にかかる抵抗を加減しながら耕うんしていきます。
- ・ハンドルを下方に押し下げすぎると、ローターはその場で回転を続け、耕うんが深くなります。逆に押しが足りないと、耕うんすることなく、本機は前方に飛び跳ねます。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲ 注意

- 当製品は、エンジンオイル・ギヤオイルともに注油済みとなっています。
ご使用前には必ず各部のオイル量を確認して下さい。
- ・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約5分以上）待ってから作業を行って下さい。

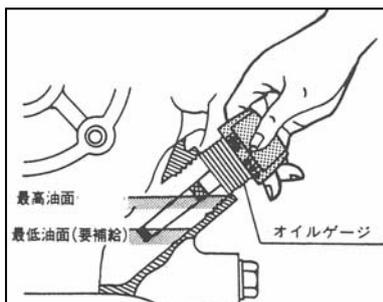
…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

- エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。
- ・安全のため、作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

■交換後の廃油は適切な処理をして下さい。■

エンジンオイルの点検・交換・注油

◎点検…

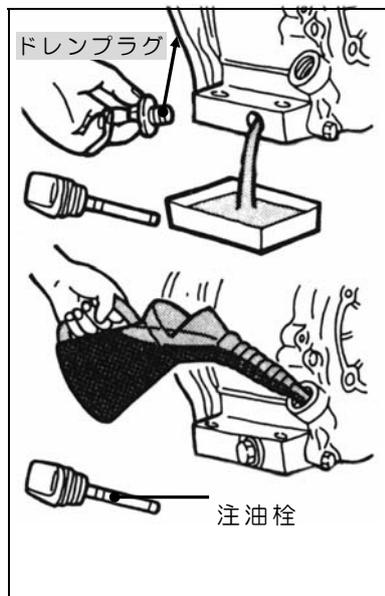


- ・給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは8時間使用毎に点検して下さい。
- ・常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。

◎交換・注油…

参考；

- 初回は1カ月又は10時間運転後、それ以降は50時間運転毎に交換して下さい。
- 但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早めの交換をおすすめします。



- ①オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、エンジン後部のドレンプラグ(排油栓)を工具を使って外して下さい。
- ②抜き終わったら元の通りにドレンプラグをしっかりと締め付けて下さい。
- ③左図を参考にしながらエンジンオイルを注油して下さい。
(エンジンオイル量は0.5㍓が適量です)
- ④エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないように、注油栓はしっかりと締め付けておいて下さい。

《推奨オイル》

API分類 SE, SF,級相当 SAE10W-30

≡ミッションオイルの交換



- ①油を受ける容器を準備し、注油栓を取り外した後ミッションケース下部の排油栓（ドレンプラグ）を外して古いオイルを排出して下さい。
- ②排油栓を取付、新しいミッションオイルを規定量（1.0㍓）注油した後、注油栓を取り付けて下さい。

参考

- 初回は25時間、それ以降は100時間運転毎に交換して下さい。
- 特に冬期においてはオイルの粘性が高く、注排出されにくくなります。このような場合には、事前にオイルを温めておくと作業がやり易くなります。

《推奨オイル》

#90

《各部の点検・整備・調整のしかた》

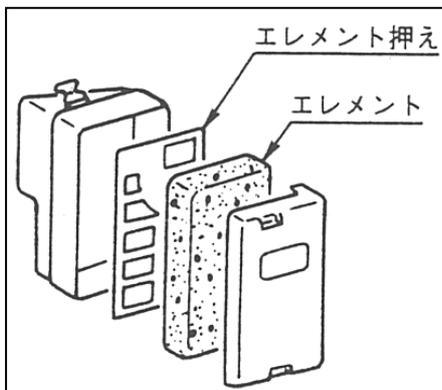
エアクリーナの清掃のしかた

⚠ 危険

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料へ引火、火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に清掃して下さい。
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやほこりを吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

⚠ 警告

- 洗い油には引火性の低い灯油を使用して下さい（火の気に注意）。
- 清掃は換気の良い場所で行って下さい。



- ① 2ヶ所でノブボルトを緩めてエアクリーナカバーを取り外し、ホコリやゴミを気化器側に入れないように注意深くエレメントを取り外して下さい。
- ② エレメントを洗い油又は水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞って乾かして下さい。
- ③ エレメントを新しいエンジンオイルに浸した後、固く絞って下さい。
- ④ エレメントを元通りに取付、カバーを元通りに取り付けて下さい。

《清掃時期》

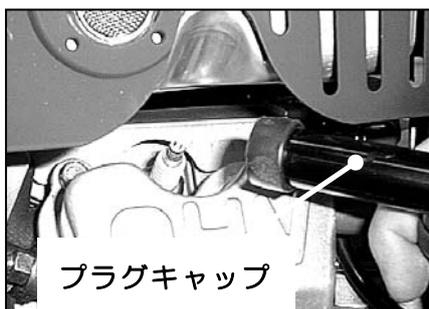
25時間毎、ほこりの多い場合は10時間毎

点火プラグの清掃・点検・調整のしかた

⚠ 注意

- エンジン停止直後のマフラや点火プラグ等は非常に熱くなっています。やけどをしないように、作業はエンジンが冷えてから行って下さい。

◎ 清掃…

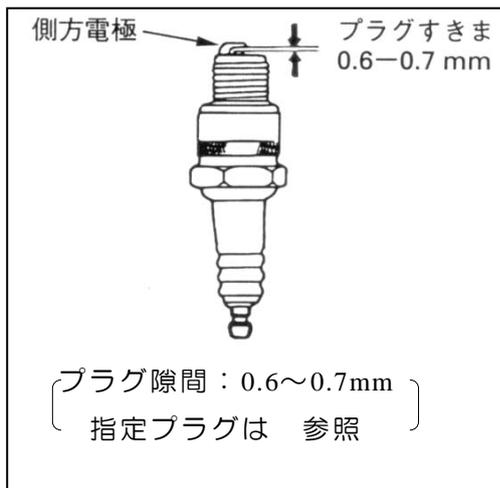


- ① 火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグと取り外して下さい。
- ② 汚れている場合はワイヤブラシ等で清掃して下さい。

◎点検・調整…

▲警告

- 電極やターミナルの磨耗、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換して下さい。
- スパークプラグの火花を確認する発火テストは熟練者以外の方は禁止、販売店に依頼して下さい。
- シリンダのプラグ孔付近での発火テストは禁止です。
- 燃料がこぼれたり、燃えやすいガスがある場所でも発火テストは禁止です。



- ①プラグ隙間を点検し、側方電極を曲げてプラグ隙間を下記寸法に調整して下さい。
- ②取付はまず指で軽くねじ込み、付属のプラグレンチを使って確実に締め付けて下さい。
- ③プラグキャップを取り付けて下さい。

参考：

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

始めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

<点火プラグ基準…NGK BR6HS>

燃料パイプの点検のしかた

▲危険

- ・くわえたばこや裸火照明での作業禁止
- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。
締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。
- ・交換時、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタの点検のしかた

▲危険

- ・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷者事故を引き起こす危険があります。換気、火気に十分注意して下さい。
- ・当エンジンは燃料コックにストレナー装着されていません。
- ・燃料給油時毎にストレナー内に推積した異物をして下さい。

参考

給油は必ず、燃料給油口内の燃料ストレーナーを通して行って下さい。さもないと水分その他異物の混入により、エンジン回転不調の原因となります。

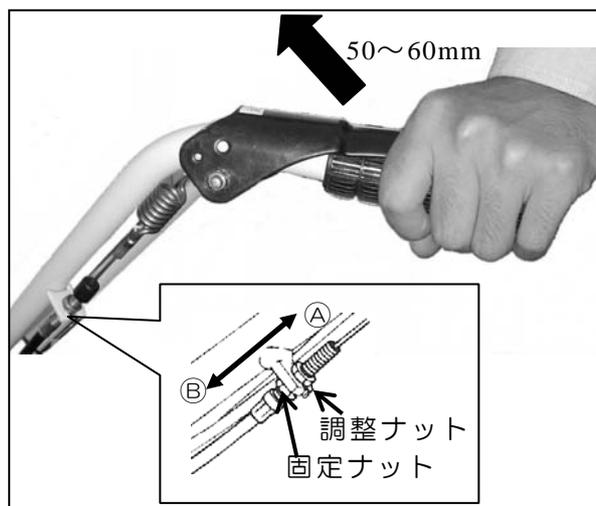
その他の点検

- ・ベルト、ワイヤは初期伸びがありますので、新品から2～3時間運転後調整し直して下さい。
- ・本機を動かしながら、異常音、異常熱発生の有無を確認して下さい。
- ・各部を十分になじませるため、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ・作業後の手入れ及び定期的な点検も忘れずに実施して下さい。

各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

▲ 注意

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。



- ①主クラッチレバーを「切」から「入」位置へゆっくりと移動させていったときに、50～60mm程度のところで駆動が繋がれば（ローターが回り出せば）ベルトの張りは正常です。
- ②上記の数値以上で駆動が繋がる場合には、主クラッチワイヤの調整ナットを②方向に移動させ、ベルトの張りを調整して下さい。（以下で繋がる場合は①方向へ）
- ③調整後、固定ナットを確実に締め付けて下さい。

参考

- ・Vベルトを交換した場合にはベルト押えの調整も行って下さい。
- ・目安として、主クラッチレバーが「切」位置のとき、ベルト押えがベルトを軽く押え、ベルトがエンジンプーリーの溝より軽く浮き上がる位置でセットして下さい。

ベルトサイズ	SA-36×1本
調整時期	初回：2～3時間目 以降：50時間運転毎

耕うん爪の点検と交換のしかた

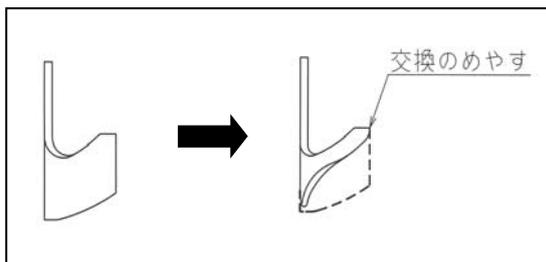
⚠ 警告

耕うん爪の点検及び交換は、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

⚠ 注意

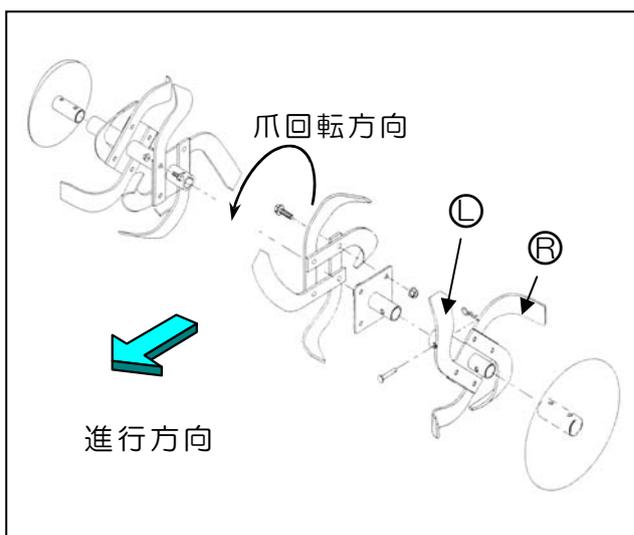
ローターの取付、交換の際には、ローターの爪先にボロ布等を巻き付け、手袋を着用して下さい。又耕うん爪はオーレック純正オリジナルフレンチ爪とご氏名下さい。

- ローターは2分割で、耕うん幅が調整できます。(550/300mm)。
- 耕うん爪の損傷、曲がりや変形を点検し、異常があれば交換して下さい。
- ローターの固定ピン、Rピンに脱落、変形がないか点検し、必要であれば新しいピンと交換して下さい。Rピンを外し、固定ピンを抜くとローターが外れます。
- 組付ける際は、ローターの向きに注意して元の状態に組付けて下さい。プライヤ等でRピンを挿み、固定ピンの穴に押し込んで下さい。
- 部分的な交換は行わず、耕うん爪は全部を一度に交換して下さい。
- 耕うん爪は交換1～2時間使用後再度爪取付ボルトの増し締めをして下さい。



■ 耕うん爪の点検

耕うん爪は始業前に必ず損傷・曲がり及び摩耗を点検して下さい。又、爪取付部のガタがないかも点検し、もし弛みがあれば増し締めをして下さい。



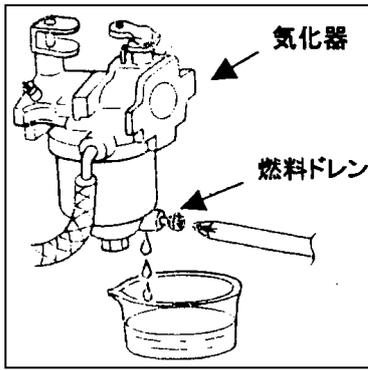
■ 耕うん爪の交換

耕うん爪の交換は、同じ向きの爪を一本ずつ交換して行って下さい。もし、途中で取り付け方が解らなくなった場合は、左図を参考に正しく取り付けして下さい。耕うん爪の曲がり方向によって、Ⓛ、Ⓜの区別があります。爪の曲がり方向と爪の回転方向に注意して取り付けして下さい。

参考

耕うん幅に関わらず、ローターの外側には必ず、ロータリ皿を取り付けて下さい。

保管のしかた



■長期間運転しない場合は、以下の手入れを行って下さい。

- ・燃料コックを「閉」位置にし、気化器下部の燃料ドレンを緩めて燃料ホース内に残ったガソリンBを排出し、燃料タンク内のガソリンはポンプ等で排出して下さい。排出後は緩めた燃料ドレンを元通りに締めて下さい。
- ・各部を清掃し、エンジンオイルを交換して下さい。

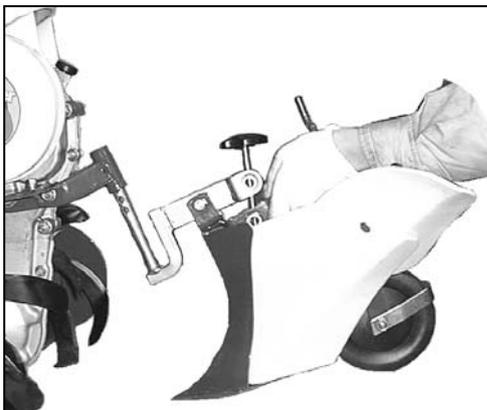
(14項参照)

- ・エンジンが十分に冷えている事を確認した後、乾燥した場所で子供の手の届かない所、又は錠のかかる場所に保管して下さい。

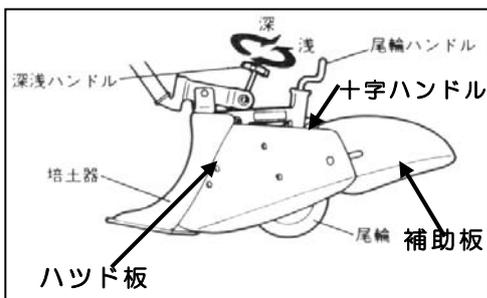
(ほこりがかからないように、カバー等を掛けて下さい。)

アタッチメント（別売品）の使用方法

■アポロ培土器…畝立、培土作業



- ①抗棒を外し、培土器をセットして下さい。
- ②深浅ハンドルを回し、培土器底板が地面と水平になるように調整して下さい。
- ③畝が浅い場合には深浅ハンドルを左に、深すぎる場合は右に回し、所要の深さに調整して下さい。
- ④畝幅は、培土器の十字ハンドルを緩め、ハツド板の開閉で調整して下さい。又、蝶ナットを緩め、補助板を前後に動かしても調整できます。
- ⑤調整位置決定後、尾輪が地面に当たる位置に尾輪ハンドルを調整して下さい。



参考

培土器を使用する圃場は事前に十分耕しておいて下さい。未耕地で使用すると、作業が出来ないばかりでなく、本機各部に負担がかかり、故障等の原因となります。

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	Vベルト	89-6122-003601	1	SA36
2.	耕うん爪セット	0042-51000	1	L×8、R×8
3.	爪取付ボルト・ナット組	0001-71000	16	ボルト×1、ナット×1
4.	固定ピン	0009-70300	6	
5.	Rピン	89-2131-080002	6	
6.	ロータリ皿	0013-50300	2	
7.	ローターASY	0013-52000	1	耕うん部一式
8.	スロットルワイヤ	0013-70500	1	レバー付
9.	主クラッチワイヤ	0013-7010	1	

《工具袋・同梱品明細》

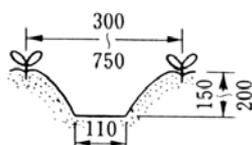
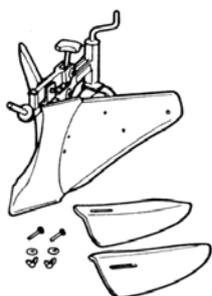
No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	部品番号：0042-70000
2.	品質保証書		1	
3.	エンジン取扱説明書		1	
3.	エンジン工具	エンジン付属	1	
4.	両口スパナ	14×12	1	

《オプション》

(用途については本書 20 項をご参照下さい。)

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	培土けん引車輪	0042-80100	1	
2.	スパイラルロータ	0042-80200	1	
3.	ミニアポロ培土板5	0042-80310	1	

用途…畦立、培土作業



区 分	
峰 金 高 さ(mm)	200
刃 先 巾(mm)	110
撥土板開閉範囲(mm)	270～700

《仕 様》 (参考数値)

名 称	ハーブティラー耕耘機	
型 式	HC55A	
全長×全幅×全高(mm)	1,110×590×920 (標準使用時)	
重 量 (kg)	32	
ハンドル上下	自在ハンドル固定式	
主クラッチ方式	デッドマンクラッチ(ベルトテンション)	
操向装置	—	
ベルト (本)	SA36×1	
ロータリ 回転数(rpm)	110	
耕 巾 (mm)	550, 330 (分割式)	
爪 数 (本)	オリジナルフレンチ爪 L8本 R8本 (計16本)	
エ ン ジ ン	名 称	カワサキ
	型 式	FJ100D-DG80
	排気量 (cc)	98
	潤滑油量 (ℓ)	0.5
	最大出力(PS/RPM)	3.0/4,000
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	BR6HS
	タンク容量 (ℓ)	1.9

※本仕様は予告なく変更する事があります。

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原動機	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○	
	②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○	
	③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○	
	④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。		○	○	
	⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか）			○	
	*⑥弁すきま	（正規の隙間であるか）			○	
	*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○	
	⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○	
潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入	○	○	○	
	②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○	
燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○	
	②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○	
	③燃料の量・質。	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○	
電気装置	①電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○	
清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○	
	②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○	
冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
	②マフラーへの草屑等の堆積。	マフラー周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○	
伝達装置	ベルト	①弛み。	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○		
車体	車体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落は		○	○
	カバー	②亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー及びワイヤ	①レバー及びワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ビツ	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落は	○	○	○
	表示マーク	①損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
残耕が残る。	爪の摩耗。	爪を交換する(爪交換時は全数交換の事)
	爪の取付方が間違っている。	爪を正しく取り付ける。
ダッシングする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	圃場が固い。	2回以上に分けて作業する。
	らくらくアンカーが磨耗している。	らくらくアンカーを交換する。
平面耕ができない。	爪の取付方が間違っている。	爪を正しく取り付ける。
ベルトがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ロータリカバー内に異物が詰まっている。	ロータリカバー内を清掃する。
	圃場が湿っている。	圃場が乾くのを待って作業を再開する。
	ベルトの摩耗。	ベルトを交換する。
作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
抵抗棒、耕深調節棒が操作不能	抵抗棒、耕深調整棒に泥や草が詰まっている。	泥や草屑等の異物を取り除く。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを N 位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックを取り外し、コック内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	*点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。